

経営比較分析表（令和5年度決算）

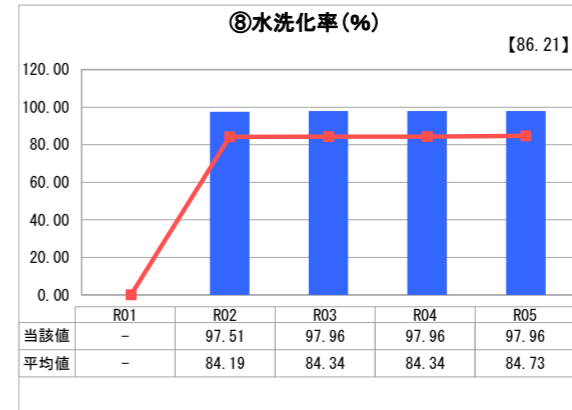
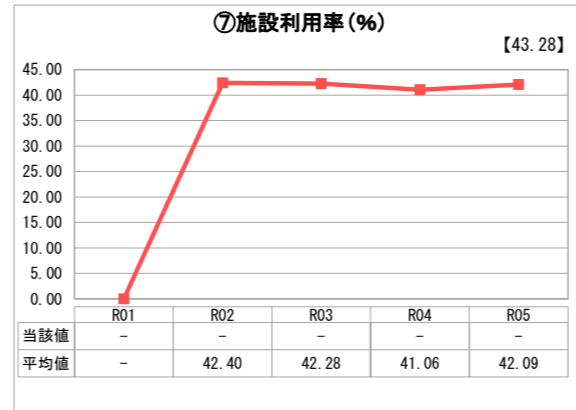
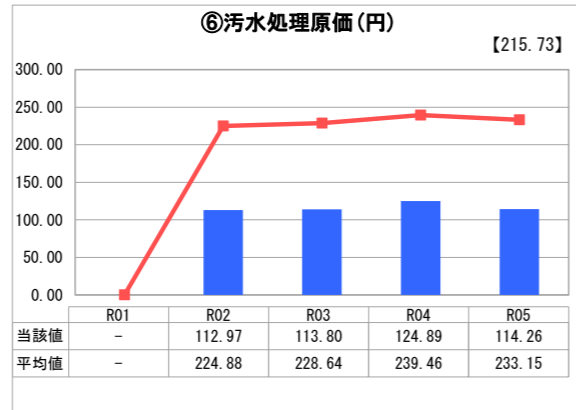
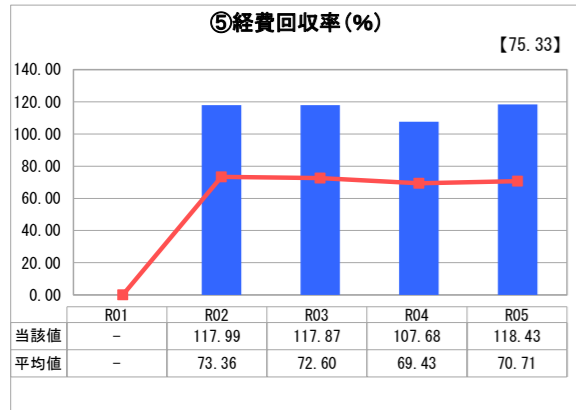
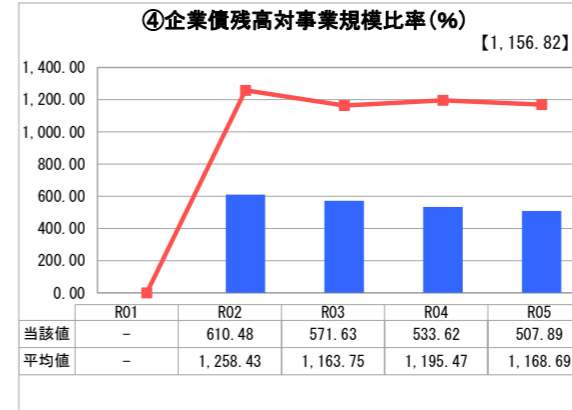
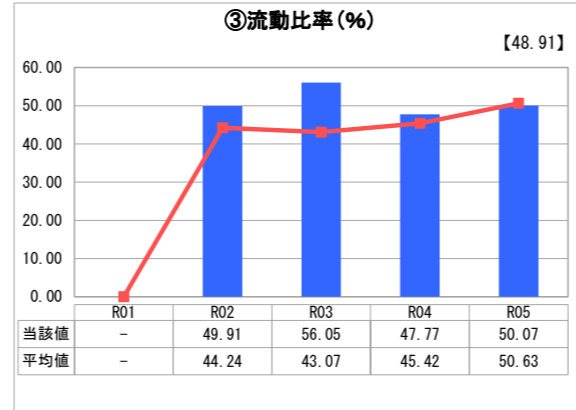
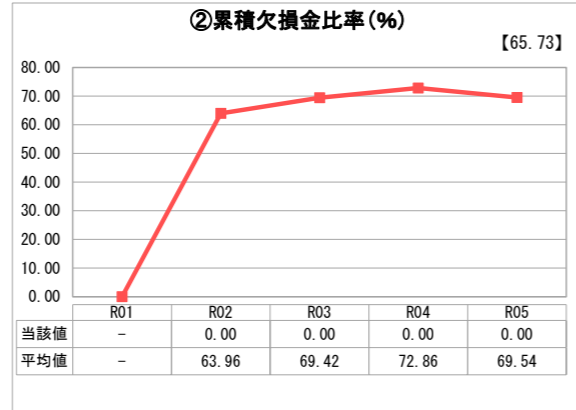
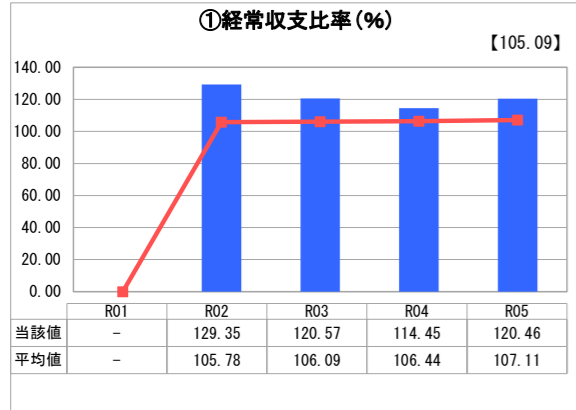
茨城県 ひたちなか市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.87	0.88	100.00	2,750

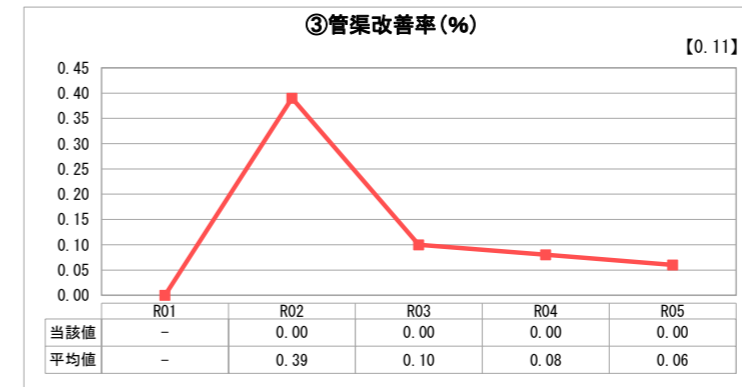
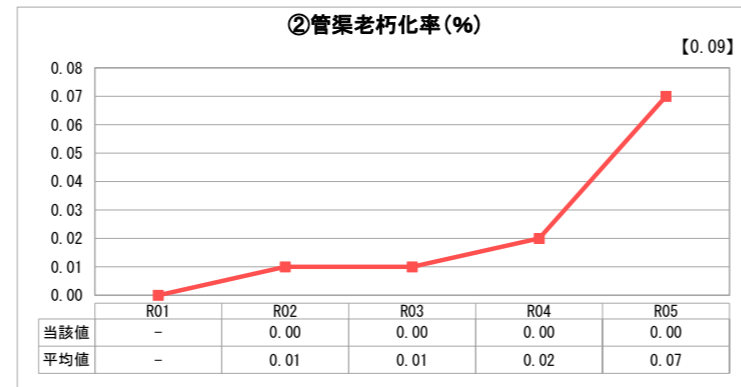
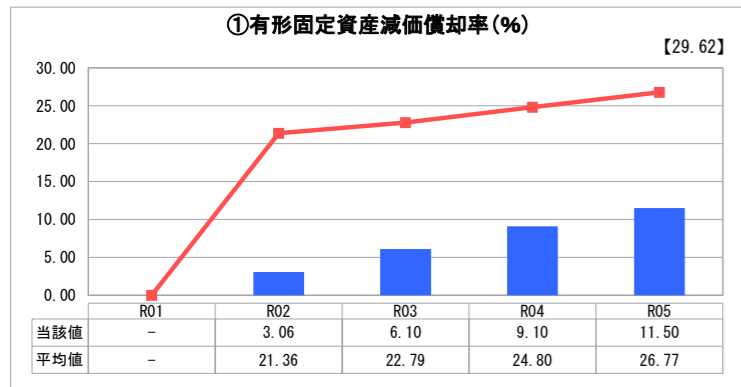
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
155,762	100.26	1,553.58
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,371	0.37	3,705.41

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○経常収支比率は100%を超えており、また、累積欠損金は生じていないことから、経営は比較的安定していると言える。
 ○流動比率は、平均値と同程度であるが、区域内の管渠整備が完了していることから、今後徐々に増加していくと考えられる。企業債残高対事業規模比率企業債について、同様の理由により今後緩やかに減少していくと想定される。
 ○経費回収率は100%を超えており、経営は順調である。
 ○汚水処理原価は、平均値を大きく下回っているが、引き続き維持管理費の抑制に努める必要がある。
 ○全域が流域下水道に接続していることから、施設利用率は算出していない。
 ○管渠整備が完了しているため、水洗化率は平均値を上回り、高い数値となっている。

2. 老朽化の状況について

○有形固定資産減価償却率は、平均値を下回っているものの、区域内の管渠は同時期に整備されており、一気に老朽化が進行することが懸念される。ストックマネジメントによる適切な維持管理及び更新に取り組む必要がある。

全体総括

○本市の特定環境保全公共下水道事業は公共下水道事業と同一の使用料体系で、同一の方針に基づき経営している。全域で整備が完了しており、今後新たな整備を行う予定はないが、適切な維持管理を行っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。